

校内研修計画

甲州市立松里中学校

1 学校課題

学校教育目標「自ら求め、学び、拓く生徒の育成」を基に、教職員が一丸となり、主体的に学習活動に取り組む生徒の育成を目指している。生徒は、授業や生徒会活動にも意欲的に取り組み、自分の力を伸ばし、仲間の一員として活躍したいと思っている生徒が多い。授業には一生懸命取り組む反面、自分の思いを表現し、粘り強く学習に取り組むことには課題がある。毎日の振り返り学習として実践している「松中ノート」が定着していない生徒も少なくない。授業は学校生活における基盤として考えたとき、学習活動において生徒が主体的に学ぶ姿勢を養っていくことは、豊かな学校生活を送るための素地につながっていく。今年度、自ら求め、学ぶ生徒の育成について再確認し、職員の授業力の向上、ICTスキルアップを図り、学びの基盤づくりをしていきたい。

2 研究主題

「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

～対話を通じた授業づくり・ICTの活用を通して～

3 主題設定の理由

1時間の授業において、生徒が「何を学ぶか」という見通しを持ち、【めあて】を理解した上で授業に参加し、授業の終わりに「何が身についたか」が明確となるような【自己評価】や【振り返り】をすることが重要であると考える。このことを実現させるためには、まず生徒の「主体的に学ぶ姿勢」が前提にあり、その根本には生徒と教師がともに楽しいと思える授業を展開することが重要である。また、協働を通して互いの考えを交流させることで「分かった」や「できるようになった」が増えることは、自信へとつながる。

ICT活用に関しては、甲州市でICT端末が導入されてから2年が経過した。2年前を「GIGAスクール元年」として3年目を迎える。生徒の日常的な利用が定着している中で、次のステップとして、より効果的な活用を進めていくことに重要性を置いている。授業内での効果的な活用は、教員の活用スキルの向上が必須であり、昨年度の反省の中でも、教員間の活用スキルの違いに課題があるということが挙げられている。個別最適化な学びを目指した、ICT端末活用の確かな推進を目指していく1年としていきたい。

4 研究の具体的な内容と方法

(1) 甲州市確かな学力育成プロジェクトとタイアップした研究

1) 家庭学習の充実

松中ノートの取り組みを充実させるために、全校統一の振り返り(左側のページ)とともに、自己調整学習(右側のページ)をさせていく。実施の中で、生徒の取り組み状況を職員間で共有しながら、より生徒の実情に合わせた「松中ノート」の取り組み方を模索していきたい。評価と指導の一体化をしていくために校内研究会で職員の共通意識を図っていく。また、家庭学習の定着を進めていくために保護者とも連携していきながら、生徒の取り組みをサポートしていく。

2) WEBQUの実施と結果分析

学級・集団づくりの質の向上のため、WEBQUを実施し、【学年ブロック研究部会】に分かれて、結果分析を行い、各クラスの担任は、アタックシートの作成をする。生徒理解と対応策について考える。

3) 授業の構造化への追求

やまなしスタンダード、甲州市の統一取組として、授業のはじめに「めあて」を生徒に示してきた。また、生徒に身につけさせたい力を明確にし、「振り返り」を行うことで生徒が「めあて」に対して自分が達成できているのかを判断し、「何が身についたか」や「どのようなことが分からなかったか」また、「分かるようになったか」についても明確にさせることで、自己調整学習を進めながら、学習を定着させたい。授業の終わりに設ける「振り返り」の時間を十分に設けることができなかったという昨年度の反省も踏まえ、授業の構造化について、改めて職員間で共通意識をもち取り組んでいきたい。

(2) 本校独自の教育研究

1) ICT 端末の効果的な活用

授業の目的を達成するための学習ツールとして ICT 端末の効果的な活用を検討していく。また、教員と生徒の活用スキルを向上させ、目的を大切にしながら日常的な活用を進めていきたい。甲州市確かな学力育成プロジェクトで確認された個別最適な学びを実現させていくために、職員の情報モラル、ICT 活用スキルの向上を目指していく。甲州市は、ICT の活用が最先端にいるという恵まれた環境であるということを念頭に置きながら ICT 活用の有効性について、実践と反省を繰り返し、よりよい活用方法を模索していきたい。また、個別最適の一部として、Google for Education や AI ドリル (LINES) の活用の可能性を探っていく。

2) お互いの授業を見合う

ICT を活用した授業について一人一実践を行っていく。日々の授業の中でも、ICT 端末や新聞を活用する授業のときにアナウンスしていただき、時間が合う先生方で授業を見合うような取り組みにしたい。本校は少数学級であり、職員が全校生徒と多くの場面で関わりがある。生徒の実情や学習への取り組み状況が共有できている中で、授業を見せ合い反省が行える。また、多くの教科で TT が実施されるため、職員同士で、アドバイスをし合い授業力の向上を目指していきたい。

3) 学びの基盤づくり

☆授業規律の継続指導

「話をする人を見て話しを聞く」「場面に応じた声の大きさで話す」「時間を守る」「あいさつ・返事」

☆全校統一の授業評価シートの活用

学年と教科のつながり(指導と評価の一体化)を意識しながら、全職員で指導にあたっていく。

年間校内研修計画

回	月 日	曜	研究内容	備考
1	4月10日	月	昨年度の成果と課題、今年度の方向性の提案 松中ノートの方向性	全体
2	5月15日	月	WEBQU の実施方法・今後の予定 ICT 研修	全体
3	6月12日	月	松中ノートの実施状況と課題 ICT 活用の課題	学年ブロック →全体
4	7月 5日	水	ICT 端末の効果的な活用について【講師招聘】	全体
5	8月25日	金	ICT 研修 *必要に応じて変更	全体
6	9月15日	金	松中ノート検討 *必要に応じて変更	全体
7	10月11日	水	研究授業指導案検討①	全体
8	11月 1日	水	WEBQU の分析② 指導案検討②	学年ブロック
9	11月29日	水	研究授業(数学)【講師招聘】	全体
10	1月15日	月	ICT の効果的な活用と松中ノートについて 成果と課題、研究紀要について	全体
11	2月 7日	水	研究紀要完成、来年度の方向性	全体

(研究主任 藤原 堅汰)